

海洋安全保障情報月報

2008年11月号



目次

2008年11月の主要事象

1. 情報要約

- 1.1 治安
- 1.2 軍事
- 1.3 外交・国際関係
- 1.4 海運・資源・環境・その他

2. 情報分析

ソマリアの海賊 ～その実態～

資料：2008年におけるアデン湾・ソマリア沖のハイジャック事案の状況（12月15日現在）

本月報は、公表された情報を執筆者が分析・評価し要約・作成したものであり、情報源を括弧書きで表記すると共にインターネットによるリンク先を掲載した。

発行者：秋山昌廣

執筆者：秋元一峰、犬塚勤、今泉武久、上野英詞、國見昌宏、小谷哲男、友森武久、高田祐子

本書の無断掲載、複写、複製を禁じます。

2008年11月の主要事象

治安：11月にはいっても、アデン湾、ソマリア沖での海賊襲撃事案が続いている。11月のハイジャック事案で注目すべきは、リベリア籍船大型原油タンカー（VLCC）、MT *Sirius Star*（31万8,000DWT）が15日、ケニアのモンバサ港の南東450カイリ余の公海で襲撃され、ハイジャックされたことである。該船は、ソマリアの海賊にハイジャックされた船舶では、これまでで最も大型であり、更に襲撃海域も沿岸から最も離れた海域であった。

こうした中で、各国の派遣海軍戦闘艦のエスコート任務や哨戒任務が活発化しているが、特筆すべき出来事が2件あった。1件は、英海軍特殊部隊による海賊容疑者の射殺である。英国防省が12日に発表したところによれば、アデン湾でNATO海上哨戒任務を遂行中の海軍フリゲートから発進した高速高浮力ボートに乗った英海軍特殊部隊は11日、イエメン沿岸南方約60カイリの海上でイエメン籍船のダウ船の海賊容疑者を射殺した。英国防省は、現在事案の詳細を調査中であるとしている。

もう1件は、ソマリアの海賊が18日、アデン湾でタイの漁船をハイジャックし、その直後に、この漁船がソマリアの海賊の「母船」と見られて、哨戒中のインド海軍のフリゲートに撃沈されたことである。この真相は、漁船の1人が漂流中に発見され、この乗組員の話から判明した。その後、国際海事局（IMB）はこの事実を確認した。

2.情報分析では、ソマリアの海賊の実態について、各種資料から纏めた。

軍事：ロシア海軍北洋艦隊からの派遣艦隊は25日、ベネズエラの首都カラカスに近いラ・グァイラに到着した。冷戦終結以来、ロシア艦隊のカリブ海展開は初めてである。ロシア海軍当局によれば、両国の合同演習は12月1日に予定されており、ベネズエラ沿岸から150カイリ離れた公海で国際法規に準拠して、実弾射撃演習や合同捜索救難演習などが実施される。

韓国海軍のイージス駆逐艦の2番艦、「栗谷李珥」（7,600トン）の進水式が14日、巨済の大字造船海洋で行われた。式典には李相熹・国防部長官、丁玉根・海軍参謀総長が参加した。韓国海軍は2007年に1番艦、「世宗大王」を進水させている。更に3番艦が2012年までに建造されることになっている。

中国国防外事公室の銭利華主任（少将）は、英紙、*The Financial Times*との会見で、「中国が空母を建造することになっても、世界は驚いてはいけぬ。中国は、空母を沿岸防衛だけに使用することになろう」と述べた。銭利華主任は、中国が空母建造を決定したのかどうかについてはコメント避けた。

外交・国際関係：バングラデシュのチョードリー外相は17日、2日間にわたったミャンマーとの海洋境界を巡る交渉が失敗に終わったが、両国は引き続きこの問題について、話し合いを続ける、と語った。両国間には11月初め、韓国の石油会社が両国の海洋境界を巡る紛争海域で試掘を開始し、これにミャンマーが2隻の海軍戦闘艦を派遣してエスコートし、これに対してバングラデシュが4隻の海軍戦闘艦を派遣したことから、4日間にわたって緊張した局面が見られた。

海運・資源・環境・その他：アデン湾、ソマリア海域での海賊事案の多発に対する対策として、一部の海運会社は、自社船舶をスエズ運河経由から喜望峰周りに変更した。デンマークの世界的な曳航・

サルベージ会社、Svitzer は、ソマリア近海における海賊攻撃のリスクを避けるため、全ての自社船舶を常時、スエズ運河経由から喜望峰周りに変更したことを、大手海運会社としては初めて公式に認めた。ノルウェーの海運会社、Odfjell は 10 日、海賊事案が多発するアデン湾経由航路を使用せず、今後、より長く、また費用が嵩むが、より安全な喜望峰周りの航路を使用する、と発表した。デンマークの海運大手、A.P. Moller - Maersk は 20 日、当分の間、速度が遅く、乾舷の低い自社船舶を、マダガスカルの東側と喜望峰経由とするが、これらの船舶をエスコートする態勢ができれば、エスコート船団に参加してアデン湾を航行することになる、と発表した。同社によれば、この方針は主にタンカーに適用され、コンテナ船は 3 隻が対象となる。

中国は 2009 年前半に、ミャンマーのベンガル湾に面したシットウェと中国雲南省を結ぶ、長大なパイプライン建設を開始する。この計画には、石油パイプラインと天然ガス・パイプラインの 2 本のパイプラインの建設が含まれる。

1. 情報要約

1.1 治安

11月1日「エジプト外務省、ソマリア海賊対策で緊急アラブ諸国会議開催を呼びかけ」(AFP, November 1, 2008)

エジプト外務省は1日、激増するソマリア海賊に対処するために、紅海に面したアラブ諸国による緊急会議の開催を呼びかけた。イエメンが11月後半に同様の会議を計画していることから、外務省は、両国で調整するとしている。外務省は、ソマリア国内の政治的混乱を指摘し、解決策はソマリア沖での海賊事案を発生させている根源的問題に取り組むものでなければならない、と強調している。

11月2日「デンマーク海軍、アデン湾で海賊の襲撃を撃退」(AP, November 2, 2008)

デンマーク海軍は2日、アデン湾でデンマークのタンカーに海賊が発砲したが、乗り込みには失敗した、と語った。海軍によれば、乗組員に怪我はなく、海賊は海軍のヘリが現場に到着するまでに逃亡していた。タンカーは、海賊によるハイジャックを阻止するために、高圧放水やその他の回避措置を取った。

11月3日「ロシア海軍戦闘艦、ソマリア沖で護衛任務を開始」(RIA Novosti, November 3, 2008)

ロシア海軍筋によれば、ロシア海軍のフリゲートは3日、ソマリア沖で船舶の護衛任務を開始した。同筋は、フリゲート、*Neustrashimy*は10月末にソマリア沖に到着し、ロシア商船の護衛任務に就いており、バルト艦隊のフリゲート、*Yelnya*も近く*Neustrashimy*に合流する。ロシア派遣部隊の司令官は、この海域における哨戒活動を調整するために、NATO艦隊とコンタクトを維持している。

11月3日「国際海運業界、各国政府宛公開書簡でアデン湾での海賊対策を要請」(Maritime Global Net, November 3, 2008)

国際海運業界の主要団体—国際海運会議所(ICS)、国際海運連盟(ISF)、ボルチック国際海運協議会(BIMCO)、国際乾貨物船主協会(Intercargo)、国際独立タンカー船主協会(Intertanko)、国際船舶管理者協会(InterManager)、及び国際運輸労働者連盟(ITF)は3日、アデン湾における海賊に対して直ちに行動を取るよう招請する、公開書簡を各国政府に送付した。書簡は、各国政府に対して、以下の3点を要請している。

- ①各国は、十分な数の戦闘艦、軍用機及び監視機材をこの海域に配備すると共に、国連の授権の下で、その指揮統制を調整する。
- ②国連安保理決議第1816と1836は、海賊に対して取り得る措置と最終的な解決までの期間を明記した新たな決議によって、補強されるべきである。
- ③逮捕した犯罪者を裁き、処罰する司法機関を設置することも必要である。これに関連して、各国は、1988年の「海洋航行不法行為防止条約」(SUA Convention)の下における義務に留意して、法的措置に関する国内法を検証し、改正することが特に求められる。

備考：「海洋航行の安全に対する不法な行為の防止に関する条約」(海洋航行不法行為防止条約)は、

船舶の不法奪取、破壊等の海洋航行の安全に対する不法な行為の犯人又は容疑者が刑事手続を免れることのないよう、締約国に対し、裁判権を設定すること及びこのような行為を引渡犯罪とすることを義務付けた上で、犯人又は容疑者を関係国に引き渡すか、訴追のため事件を自国の当局に付託するかのいずれかを行うことを義務付けるものである。1988年にローマで作成され、1992年3月に発効した。日本は1998年4月に同条約に加入、同年7月に日本について発効した。(外務省 HP より)

http://www.mofa.go.jp/Mofaj/press/danwa/17/dga_1014.html

11月4日「ソマリアの海賊、トルコ船の解放に身代金要求」(AFP, November 4, 2008)

トルコの Yasa 海運会社用船の、MV *Yasa Neslihan* (マーシャル諸島籍船) が 10月29日にアデン湾で 20人の乗組員と共にハイジャックされたが、同社によれば、ハイジャッカーは4日、身代金を要求してきた。同社は、要求額を明らかにしなかったが、何らかの措置を取ることを検討している。トルコ政府は、自国の戦闘艦を含む、NATO 艦隊に対して支援を要請している。

11月6日「NATO 派遣艦隊司令官、派遣は一時的と語る」(The Standard, Kenya, November 7, 2008)

ソマリア海域への NATO 派遣艦隊、Standing Nato Maritime Group 2 (SNMG2) のガミエロ (RADM Giovanni Gumiero) 司令官 (イタリア海軍) は6日、ケニアのモンバサ港でのイタリア海軍駆逐艦上での会見で、NATO 派遣艦隊の哨戒活動は「一時的なもの」とした上で、以下のように語った。①現在、ソマリア海域には、イタリア海軍の駆逐艦、英海軍及びギリシャ海軍のフリゲートの3隻が展開しており、②英海軍のフリゲートがアデン湾を哨戒し、他の2隻が世界食糧計画 (WFP) の援助船を護衛している。

備考：10月15日付けの NATO Allied Maritime Component Command Naples, News Releases によれば、SNMG2 派遣艦隊は最終的には以下から構成される。旗艦となるイタリア海軍の駆逐艦 (ITS *Durand de la Penne*)、ドイツ海軍のフリゲート (FGS *Karlsruhe*) と補給艦 (FGS *Rhon*)、ギリシャ (HS *Themistokles*)、トルコ (TCG *Gokova*) 及び英国海軍のフリゲート (HMS *Cumberland*)、米国海軍の駆逐艦 (USS *The Sullivans*) の7隻。

11月7日「ソマリアの海賊、デンマーク船をハイジャック」(AP, November 8, 2008)

クアラルンプールの海賊通報センター (PRC) のノエル・チョーン所長によれば、ソマリアの海賊は7日、アデン湾でデンマークの海運会社用船のばら積み船、*CEC Future* (バハマ籍船、4,980GT) をハイジャックした。該船の乗組員は13人 (ロシア人11人、グルジア人1人、エストニア人1人) で、中東からアジアに向けてアデン湾を航行中であった。チョーン所長によれば、この事案が2008年に入って81件目の襲撃事案で、その内、32隻がハイジャックされた。現在、11隻が拘束されており、200人以上が人質となっている。

11月10日「EU、ソマリア沖哨戒活動発令」(AFP, November 10, 2008)

EU は10日、ブリュッセルで開催した国防相会議で、ソマリア沖における対海賊哨戒活動を承認した。この哨戒活動、Operation Atalanta は、EU による初めての海軍任務で、派遣艦艇は、国連のソ

マリア支援船を護衛すると共に、その他の船舶の航行支援を行う。この哨戒活動は、3隻のフリゲートと補給艦1隻を含む、少なくとも7隻の艦艇と哨戒機で実施される。哨戒活動は、ロンドン近郊のNorthwoodに本部を置き、フランス、ドイツ、ギリシャ、オランダ及びスペインが参加し、またポルトガル、スウェーデン及びEU未加盟のノルウェーからの参加も見込まれている。

11月10日「ソマリアの海賊、フィリピン船をハイジャック」(AP, November 11, 2008)

クアラルンプールの海賊通報センター (PRC) のノエル・チョーン所長によれば、アデン湾でケミカル・タンカーが10日、自動火器とロケット推進擲弾筒で武装した海賊に襲撃され、ハイジャックされた。フィリピン外務省報道官によれば、該船はフィリピン籍船の MT *Stolt Strength* (3万3,209DWT) で、乗組員は23人で、全員がフィリピン人である。該船は、リン酸を積んで、セネガルからインドのカンドラに向けて航行中であった。用船会社によれば、該船はハイジャックされた時、アデン湾の安全回廊の中を航行中であった。

11月10日「シンガポール海峡で海賊事案、発生」(The Straits Times, November 12, 2008)

シンガポール海峡で10日、シンガポール籍船の舢艫と曳船していたインドネシア籍船のタグボートが海賊に襲われ、金品を盗まれた。担当で武装した5人の強盗は10日の深夜、シンガポール海峡の Batu Berhenti の北東を航行していたタグボート、the *Maju Daya 3* に乗り込み、現金、携帯電話や時計など、3,200米ドル相当の金品を盗んで、船外エンジン付きの木製ボートで逃亡した。10人の乗組員は無事で、船長はシンガポール港湾管理センターに通報した。タグボートは、砂を満載した舢艫、the *Marcopolo 188* を曳船していた。

この事案は、9月初め以来、4回目で、いずれも Batu Berhenti 周辺で起きており、同じグループの犯行と見られている。

9月初め以来の犯行現場海域

http://www.straitstimes.com/Breaking%2BNews/Singapore/Story/STISStory_301346.html

11月11日「ロシア海軍フリゲート、デンマーク船のエスコート開始」(AP, November 11, 2008)

ロシアとデンマーク当局は、ロシア海軍のフリゲート、the *Neustrashimy* が11日、デンマークの海運会社用船の MV *CEC Commander* のエスコートを開始した、と語った。該船の乗組員にはロシア人15人が含まれている。これは、該船の用船会社が、乗組員の大半がロシア人であり、また同社用船の別の船がハイジャックされているために、要請したものである。同社用船の MV *CEC Future* (乗組員はロシア人11人を含む13人) は7日にアデン湾でハイジャックされたばかりである。The

Neustrashimy のエスコート任務はこれが初めてである。

11月11日「英海軍特殊部隊、海賊容疑者を射殺」(The Guardian, November 12, 2008, Daily Mail Online, November 13, 2008, and others)

英国防省が12日に発表したところによれば、アデン湾でNATO海上哨戒任務を遂行中の海軍フリゲート、HMS *Cumberland* から発進した高速高浮力ボート (RHIB) に乗った英海軍特殊部隊は11日、イエメン沿岸南方約60カイリの海上でイエメン籍船のダウ船の海賊容疑者を射殺した。国防省によれば、ダウ船を非強制的な方法で停船させようとしたが、ダウ船は停船しなかった。特殊部隊が乗ったRHIBがダウ船を取り囲んだが、ダウ船から特殊部隊に向けて発砲した。特殊部隊は「自衛のため」に応戦し、ダウ船の乗組員は降伏した。ダウ船に乗り込んだ特殊部隊は、ソマリア人と見られる2人の死体と負傷したイエメン人1人を発見した。このイエメン人は、フリゲートの医官が手当てしたが、その後死亡した。(The Guardian, November 12)

この事案に先立って、同じ11日にHMS *Cumberland* が、デンマークの貨物船、MV *Powerful* (パナマ籍船) のハイジャックを阻止する事案があった。これには、ロシア海軍のフリゲート、the *Neustrashimy* も加わった。ロシア海軍広報官によれば、海賊は該船に発砲し、2度にわたってハイジャックしようとした。英口のフリゲートからはヘリが発進した。救助を求められた時、the *Neustrashimy* は別のデンマーク船をエスコートしていた。(Shiptalk, November 12)

英国防省によれば、船尾に1隻の高速ボートを繋いだ前出のダウ船はデンマーク船を襲ったハイジャッカーの母船と見られているが、英海軍はそれを証明する証拠を提示しておらず、現在事案の詳細を調査中であるとしている。(Ecoterra international, November 13)

特殊部隊が乗ったRHIBが取り囲む前のダウ船 (船尾に1隻の高速ボートを繋いでいる)

ダウ船を取り囲んだ特殊部隊が乗った RHIB (円内の写真は手を挙げる海賊容疑者)

Source: Daily Mail Online, November 13, 2008

<http://www.dailymail.co.uk/news/worldnews/article-1085204/Pictured-The-moment-Royal-Navy-sailors-shot-dead-Somali-pirates-try-hijack-cargo-ship.html>

【関連記事】

「英海軍、ソマリア人のみ拘束」(Maritime Global Net, November 17, 2008)

英国防省によれば、ダウ船には3人の死者を除いて17人が乗っており、英海軍は14日までに、HMS *Cumberland* に拘束していた8人のソマリア人を英海軍補助艦、Wave Knight に移乗させた。イエメン人はダウ船で母港に戻った。

11月11日「インド海軍戦闘艦、海賊の襲撃を阻止」(Ecoterra international, November 11, 2008)

インド海軍の駆逐艦、INS *Tabar* は11日、アデン湾海域でインド籍船のばら積み船、MV *Jag Arnav* とサウジアラビア籍船のばら積み船、MV *NCC Thihama* に対する海賊の襲撃を阻止した。また、アデン湾を哨戒中のインド海軍駆逐艦、INS *Gomti* からは、海兵隊特殊部隊を乗せた武装ヘリが現場に派遣され、海賊に発砲した。海賊は逃亡した。MV *Jag Arnav* (3万8,265DWT) はスエズ運河を通峡してアデン湾を東方に航行中で、アデン東方60カイリの海域で襲撃された。該船は、別のインド海軍駆逐艦、INS *Sabar* にエスコートされて航行中である。これは、インド海軍戦闘艦がアデン湾海域に派遣されて初めての海賊対処となった。インド海軍のメタ司令官は、「派遣艦隊は最高度の即応態勢にあり、搭載ヘリと装備で十分な介入能力を持っている。派遣艦隊の任務は、インド籍船の安全維持を確保することである」と語った。

11月12日「ソマリアの海賊、トルコ籍船をハイジャック」(Trade Winds, November 13, 2008)

ソマリアの海賊は12日、イエメン沿岸26カイリのアデン湾でトルコ籍船のケミカル・タンカー、MT *Karagol* (6,000DWT) をハイジャックした。該船の乗組員は14人である。

MT Karagol (6,000DWT)

<http://cruelkev2.blogspot.com/2008/11/india-bound-turkish-ship-hijacked.html>

11月13日「ソマリアの海賊、中国漁船をハイジャック」(Xinhua, November 14, 2008)

中国の漁船、*Tian Yu.8* (天裕8号) は13日、ケニア沖でロケット推進擲弾筒と自動火器で武装した海賊にハイジャックされた。該船は14日、ソマリア南部のキスマヨに係留された。日本人の船長、3人のフィリピン人、4人のベトナム人及び16人の中国人の計24人の乗組員は無事という。該船はマグロ漁船で、天津遠洋漁業会社の所属である。

この事案は、ソマリア南部で報告された最初の襲撃事案である。ソマリアの海賊は、不法操業や廃棄物の投棄からソマリアの資源を護っていると主張しており、ソマリア沿岸沖で操業していた漁船を捕獲した、と語っている。

ハイジャック漁船、天裕8号、天津遠洋漁業会社所属

Left: Dawn, November 25, 2008

<http://www.dawn.net/wps/wcm/connect/Dawn%20Content%20Library/dawn/news/pakistan/pakistan-offers-un-navy-help-to-combat-piracy-qs>

Right: Spiegel Online, November 24, 2008

<http://www.spiegel.de/fotostrecke/fotostrecke-37406-9.html#backToArticle=592433>

11月15日「ソマリアの海賊、日本関係船をハイジャック」(Bloomberg, November 17, 2008)

ソマリアの海賊は15日、アデン湾において、日本のイイノマリンサービスの関係船であるケミカル・タンカー、MT *Chemstar Venus* (2万トン、パナマ籍船) をハイジャックした。該船の乗組員は、フィリピン人18人と韓国人5人の計23人である。

11月15日「ソマリアの海賊、大型原油タンカーをハイジャック」(AFP, November 17, 2008 and others)

米第5艦隊報道官によれば、Vela International用船 (Saudi Aramco 所有) のリベリア籍船大型原油タンカー (VLCC)、MT *Sirius Star* (31万8,000DWT) が15日、ケニアのモンバサ港の南東450カイリ余の公海で襲撃され、ハイジャックされた。乗組員は、クロアチア人1人、英国人2人、フィリピン人19人、ポーランド人2人及びサウジアラビア人1人の25人である。

該船は、ソマリアの海賊にハイジャックされた船舶では、これまでで最も大型であり、更に襲撃海域も沿岸から最も離れた海域であった。襲撃時に該船は原油を積載していたが、船隊には損傷はないという。(International Herald Tribune, November 17, 2008) 積載原油量については、200万バレル、1億米ドル以上相当と報じられている。(BBC News, November 18, 2008) Vela Internationalは、対策チームを立ち上げ、乗組員の安全な解放に向けて交渉を開始した。(Shiptalk, November 18, 2008)

Vela Internationalによれば、該船は、韓国の大宇造船海洋で建造され、2008年3月に処女航海を行ったばかりである。(Vela International HP)

MT *Sirius Star* (31万8,000DWT)

Source: BBC News, November 19, 2008
<http://news.bbc.co.uk/2/hi/africa/7735507.stm>

【関連記事 1】

「ハイジャッカー、船主側と交渉開始」(The Times Online, November 18, 2008)

MT *Sirius Star* をハイジャックした海賊は17日、船主側と交渉を開始した。米海軍によれば、該船はハラルデーレ (Harardere) に向けて航行している。該船を用船する Vela International によれば、25人の乗組員は無事で、200万バレルの原油もそのままという。Vela International は対策チームを設置し、乗組員と該船の解放に向けて作業を開始している。

【関連記事 2】

「ハイジャッカー、2,500万米ドルの身代金を要求」(AFP, November 21, 2008)

MT *Sirius Star* のハイジャッカーは20日、10日間の期限を設定して、2,500万米ドルの身代金を要求してきた。モハメド・サイド (Mohamed Said) と名乗る海賊は、「我々はサウジアラビアのタン

カーの船主に2,500万米ドルを要求している。我々は、問題解決のために長期間話し合うつもりはない。期限を守らなければ、災難を引き起こす行動を取る」と、ハラルデーレに係留されている該船からAFPに語った。

その後、ハイジャッカーのイスラム教徒のリーダーと現地の海賊グループが24日、明らかにしたところによれば、身代金の要求額は、1,500万米ドルに引き下げられたという。(Reuters, November 24, 2008)

11月16日「ソマリアの海賊、香港籍船を解放」(gulfnews.com, November 16, 2008)

ソマリアの海賊は16日、香港籍船で日本関係船、MT *Stolt Valor*を解放した。110万米ドルの身代金が支払われたという。該船は、9月15日にアデン湾でハイジャックされた。乗組員は、18人のインド人を含む22人である。インド海員組合によれば、乗組員は無事で、健康状態も良いという。

11月18日「ソマリアの海賊、タイの漁船をハイジャック」(AP, November 19, 2008)

国際海事局(IMB)のクアラルンプールの海賊通報センター(PRC)のノエル・チョーン所長によれば、ソマリアの海賊は18日、アデン湾でタイの漁船をハイジャックした。タイの漁業会社、Sirichai Fisheries Co., Ltd.によれば、この漁船はキリバス籍船の、FV *Ekawat Nava 5*で、オマーンからイエメンに漁具を運んでいた。乗組員は16人で、タイ人が15人とカンボジア人が1人である。該船から2隻の高速ボートに追跡されているとの救難信号があったが、その後接触できなくなった。

【関連記事 1】

「インド海軍戦闘艦、ソマリア海賊の『母船』撃沈」(BBC News, November 19, 2008)

インド海軍の発表によれば、インド海軍ステルス・フリゲート、INS *Tabar*は18日、オマーンのサララ南西285カイリの海上を哨戒中、ソマリアの海賊の「母船」と見られる船舶に臨検のため停船を命じたが、海賊は「近づけば、攻撃する」と応じたので、撃沈した。インド海軍によれば、海賊は銃器やロケット推進擲弾筒で武装しており、砲撃したとき爆発音が聞こえたことから、船内に貯蔵していた爆発物に引火したと見られる。海賊の一部は2隻の高速ボートで逃亡を図ったが、インド海軍が追跡した。1隻は放棄されていたが、別の1隻は逃亡した。

【関連記事 2】

「撃沈された『母船』、実はハイジャックされたタイの漁船」(CNN, November 25, 2008)

FV *Ekawat Nava 5*のタイの船主が25日に明らかにしたところによれば、インド海軍のステルス・フリゲート、INS *Tabar*が撃沈した「母船」と見られる船は、タイのトロール漁船だったようである。船主によれば、乗組員16人の内、14人が未だ行方不明で、1人は6日後アデン湾を漂流中に発見され、もう1人は死亡が確認された。INS *Tabar*に遭遇したとき、該船は海賊の制圧下にあった。船主によれば、生き残ったカンボジア人乗組員の話から該船の状況が判明した。

【関連記事 3】

「IMB、インド海軍撃沈の『母船』がタイ漁船であることを確認」(BBC News, November 26, 2008)

国際海事局(IMB)のクアラルンプールにある海賊通報センター(PRC)のノエル・チョーン所長は26日、インド海軍のステルス・フリゲート、INS *Tabar*が撃沈した海賊の「母船」と見られる船

は、タイの漁船、FV *Ekawat Nava 5*であったことを確認し、フリゲートと遭遇時、海賊にハイジャックされて、乗組員が拘束されていた、と語った。同所長は、「これは不幸な悲劇であり、この事件が多国籍海軍部隊による対海賊哨戒活動に影響を及ぼさないことを希望する」と述べた。一方、インド海軍は、撃沈が正当であったとの当初の主張を変えていない。タイ外務省は、駐タイ・インド大使に抗議し、説明を求めた。

該船の船主は、該船がハイジャックされたことを IMB に通報し、援助を求めた、と語っている。IMB はこの事実をこの海域の多国籍海軍部隊に通報したが、チョーン所長は、インド海軍戦闘艦がこの通報を受信したか、あるいは IMB とのリンクがなかったかは定かでない、と語っている。

11月18日「ソマリアの海賊、香港籍船をハイジャック」(Reuters, November 19, 2008)

香港海難救助調整センター (Hong Kong's Maritime Rescue Co-ordination Centre) によれば、イラン向け小麦を積んだ香港籍船でイラン国営海運会社用船のばら積み船、MV *Delight* (2万5,768GT) が18日、イエメン沖でソマリアの海賊にハイジャックされた。該船は、9月以降にこの海域でハイジャックされた、3隻目の香港籍船である。該船の乗組員は25人で、イラン人、パキスタン人、フィリピン人及びガイアナ人からなる。

MV *Delight* (2万5,768GT)

<http://www.shipspotting.com/modules/myalbum/photo.php?lid=747509>

11月18日「NATO、ソマリア沖への長期派遣を検討」(AFP, November 18, 2008)

NATO 報道官は18日、NATO が海賊対策のための長期任務を検討していることを明らかにした。NATO は現在、英国、ギリシャイタリヤ及びトルコの各国海軍から4隻の戦闘艦をソマリア海域の哨戒任務に派遣しており、別の2隻が国連世界食糧計画 (WFP) の支援船をエスコートしている。ナポリに司令部を置く、NATO 最初の海賊対処任務は、12月半ばに、より多くの戦闘艦で構成される EU による哨戒任務と交代することになっている。

11月19日「ソマリアの海賊、香港籍船を解放」(Nasdaq, November 20, 2008)

ソマリアの海賊は19日、香港籍船のばら積み船、MV *Great Creation* を解放した。該船は、9月18日にチュニジアからインドに向かう途中でハイジャックされていた。東アフリカ船員支援計画のムワングラ・ケニア支部長によれば、25人の乗組員 (24人の中国人と1人のスリランカ人) は無事で、

該船と共にアラブ首長国連邦のアブダビに向かっている。

11月20日「紅海沿岸諸国・アラブ諸国、ソマリアの海賊を非難」(AFP, November 20, 2008)

紅海沿岸諸国とアラブ諸国の代表は20日、カイロで会議を開催し、ソマリア沖の海賊を非難した。イエメンとエジプトの共催によるこの会議には、ソマリア暫定連邦政府、サウジアラビア、スーダン、アラブ首長国連邦、ジブチ及びヨルダンの代表が参加した。会議後に発表された声明は、海賊襲撃事案の増大に懸念を表明し、海賊対処について勧告を作成するために軍事委員会を設置すると述べている。また声明は、国際法規に準拠し、関係各国の領土と領海における主権を尊重する限りにおいて、国際的な海賊対策を支持すると強調している。会議に先立って、イエメンは、海賊対策のためにアデン湾に多くの多国籍海軍部隊が展開していることはアラブの安全保障の脅威になりかねないとして、懸念を表明していた。

11月20日「国連安保理、ソマリア情勢に関する決議案採択」(Reuters, November 20, 2008)

国連安保理は20日、ソマリア情勢に関する決議第1844を全会一致で採択した。この決議は英国の提案で、ソマリア国内における暴力や治安悪化に加担する個人や組織に対して、資産の凍結や渡航禁止などの制裁を科すことを狙いとしている。この制裁措置は、ソマリアに対する人道的支援を妨害する個人や組織も対象としている。

備考：決議全文は以下を参照。

<http://daccessdds.un.org/doc/UNDOC/GEN/N08/611/31/PDF/N0861131.pdf?OpenElement>

11月20日「ソマリアの海賊、リベリア籍船を解放」(Bloomberg, November 22, 2008)

ソマリアの海賊は20日、ギリシャの海運会社用船のケミカル・タンカー、MV *Genius* を解放した。海運会社は、身代金を支払ったことを認めたが、詳細は明らかにしていない。該船は、9月26日にアデン湾でハイジャックされていた。該船は解放後、アラブ首長国連邦に向かっている。

11月21日「ロシア海軍戦闘艦、国際船団を護衛」(RIA Novosti, November 21, 2008)

ロシア海軍司令官補佐官が21日に明らかにしたところによれば、ソマリア沖派遣のミサイル・フリゲート、the *Neustrashimy* は、「アフリカの角」海域を航行する、9隻の船舶からなる国際船団（ロシア籍船、マーシャル諸島籍船及びケイマン諸島籍船各1隻、リベリア籍船6隻）をエスコートしている。同補佐官は、ロシア海軍は船舶航行の安全確保のために、引き続きこの海域にプレゼンスを維持すると述べたが、より多くの戦闘艦派遣の可能性については、この海域に恒久的基地を有しておらず、時期尚早として否定した。

11月25日「ソマリアの海賊、イエメン籍船をハイジャック」(Maritime Global Net, November 26, 2008)

東アフリカ船員支援計画のムワンガラ・ケニア支部長によれば、ソマリアの海賊は25日、イエメン籍船の貨物船、MV *Amani* をアデン湾でハイジャックした。

【関連記事】**「イエメン籍船、身代金なしで解放」(Al Jazeera, December 1, 2008)**

ソマリアの海賊は 30 日、MV *Amani* を解放した。この解放は、ソマリアのプントランド自治政府当局、地方軍閥及び海賊による協議の結果、実現した。自治区の大臣は 12 月 1 日、「該船は、長い議論の末、昨晚解放され、係留地のエイルを離れ、イエメンに向かっている。乗組員の生命に異常はなく、身代金は支払われなかった」と語った。該船は、イエメンの海運会社の所有で、乗組員は 7 人である。該船は 11 月 25 日に、鋼材を積んでイエメンのムッカラからソコトラ島に向けて航行中にハイジャックされた。

11 月 28 日「韓国、ソマリア沖への海軍戦闘艦派遣延期」(Yonhap News, November 29, 2008)

韓国政府当局者が 28 日に明らかにしたところによれば、韓国政府はソマリアへの海軍戦闘艦派遣を延期した。韓国は当初、2008 年末までに、戦闘艦派遣について国会の承認を得る計画であった。李明博大統領は 26 日の閣議で、戦闘艦の派遣には約 450 億ウォン (3,100 万米ドル) の経費が見込まれることから、派遣法案を国会に提出する前に、「より慎重な」検討を求めた。派遣法案は 2009 年 2 月の会期には提出されないと見られる。

11 月 28 日「ソマリアの海賊、リベリア籍船をハイジャック」(Lloyd's List, November 28, and Shiptalk, November 29, 2008)

ソマリアの海賊は 28 日、リベリア籍船でシンガポールの海運会社用船のケミカル・タンカー、MT *Biscaglia* (2 万 7,350DWT) をアデン湾でハイジャックした。該船の乗組員は 28 人で、その内 3 人 (英国人 2 人とアイルランド人 1 人) は非武装の保安要員で、他の乗組員はインド人とバングラデシュ人であった。この 3 人の保安要員はロンドンの民間船舶保安会社、Anti-Piracy Maritime Security Solutions (APMSS) の所属で、元英軍兵士であった。該船がハイジャックされた後、3 人の保安要員は船上から海中に飛び込み、ドイツ海軍のヘリに救助され、フランス海軍のフリゲートに移送された。APMSS の幹部は、3 人の保安要員の話として、彼らは乗組員の安全を確保するためにあらゆる努力をした後、脱出したが、ハイジャッカーに船上から銃撃された、と語った。

Left: MT *Biscaglia* (27,350DWT)

Source: Al Jazeera, November 30, 2008

<http://english.aljazeera.net/news/africa/2008/11/200811301551825218.html>

Right: A German military helicopter rescues three crewmen of MT *Biscaglia*

Source: Shiptalk, November 29, 2008

<http://www.shiptalk.com/index.asp?ItemID=4075&rcid=217&pcid=148&cid=217#anch>

11月30日「ソマリアの海賊、オセアニア・クルーズの客船に発砲」(Fairplay Daily News, November 30, 2008)

オセアニア・クルーズ (Oceania Cruises) の客船、MV *Nautica* (3万277GT) は30日、684人の乗客を乗せて、アデン湾の安全回廊を航行中、小型高速ボートから発砲された。オセアニア・クルーズによれば、該船が漁船数隻の横を通過している間、当直要員が攻撃する可能性があるように見える小型高速ボート2隻を視認した。これら2隻は約1,000メートルの距離から該船のコースを遮るよう接近してきた。該船は直ちに回避行動をとった。1隻のボートは約275メートルまで接近し、ライフル銃を8発発射したが、該船は航行速度を速め、逃げ切った。乗客乗員に負傷者はなく、客船にも損傷を受けなかった。

この海域で、クルーズ船が海賊に襲撃されるのは、これが3度目である。最初は2005年11月に豪華客船、MV *Seabourn Spirit* が襲撃された事案で (OPRF 海洋安全保障情報月報 2005年11月号3. 特集参照)、2度目が2008年4月にフランスの豪華ヨット、*Le Ponant* がハイジャックされた事案である (OPRF 海洋安全保障情報月報 2008年4月号1.1 治安参照)。

MV *Nautica* (30,277GT)

<http://www.nowpublic.com/world/oceania-cruises-nautica>

11月30日「ウクライナ船、身代金で妥結か」(The New York Times, November 30, 2008)

東アフリカ船員支援計画のムワンガラ・ケニア支部長は30日、ウクライナ船、MV *Faina* の解放について、ハイジャッカーと船主との間で、身代金について合意に達した、と語った。ムワンガラ支部長によれば、残された問題は身代金の受け渡し方法と該船の解放をどのようにするかであるが、船上には海賊がおり、また該船の周囲を欧米の海軍戦闘艦が取り囲んでいることから、これは容易なことではないという。身代金の金額については公表されていないが、現在海賊は300～500万米ドルを要求しているという。

MV *Faina* の状況

Source: BBC News, November 30, 2008
<http://news.bbc.co.uk/2/hi/africa/7757259.stm>

1.2 軍事

11月7日「ロシア艦隊、11月後半にベネズエラへ」(RIA Novosti, November 7, 2008)

ベネズエラ国防省報道官は7日、ミサイル巡洋艦、*Pyotr Veliky* を旗艦とするロシア海軍北洋艦隊派遣艦隊が11月24～30日の間、首都、カラカスを訪問する、と発表した。同報道官によれば、この間、合同演習が実施される。派遣艦隊には、大型対潜艦、*Admiral Chabanenko* も随伴しており、現在派遣艦隊は地中海におり、5日にはトゥーロンのフランス海軍基地に初めて寄港した。ミサイル巡洋艦、*Admiral Kuznetsov* を旗艦とするロシア海軍北洋艦隊の別の派遣艦隊は、12月に黒海艦隊と地中海で演習を実施することになっている。

【関連記事】

「ロシア艦隊、ベネズエラ到着」(VOA News, November 25, 2008)

ロシア艦隊は25日、首都カラカスに近いラ・グアイラに到着した。冷戦終結以来、ロシア艦隊のカリブ海展開は初めてである。米務省報道官は24日、ベネズエラとの合同演習を注目していると述べたが、ロシア艦隊の展開がカリブ海における米国の影響力への挑戦とする見方については、否定した。ベネズエラのチャベス大統領も24日、両国の演習は挑発的なものではない、と語った。

ロシア海軍当局によれば、両国の合同演習は12月1日に予定されており、ベネズエラ沿岸から150カイリ離れた公海で国際法規に準拠して、実弾射撃演習や合同捜索救難演習などが実施される。演習実施の間、演習海域では全ての船舶の通航が禁止される。ベネズエラ海軍からは、2～3隻の戦闘艦が参加する。演習終了後、ロシア艦隊は、ロシア太平洋艦隊の戦闘艦と合流し、2009年1月に実施されるインド海軍との合同演習に参加する。(RIA Novosti, November 25, 2008)

11月14日「韓国のイージス駆逐艦、2番艦進水」(Yonhap News Agency, November 14, 2008)

韓国海軍のイージス駆逐艦の2番艦、「栗谷李珥」(7,600トン)の進水式が14日、巨済の大字造船海洋で行われた。式典には李相憲・国防部長官、丁玉根・海軍参謀総長が参加した。韓国海軍は2007

年に1番艦、「世宗大王」を進水させている。更に3番艦が2012年までに建造されることになっている。「栗谷李珥」は、朝鮮で最も有名な儒学者の1人である。

イージス駆逐艦、「栗谷李珥」(7,600トン)

<http://joongangdaily.joins.com/article/view.asp?aid=2897390>

11月16日「中国国防幹部、中国の空母計画について語る」(The Financial Times, November 16, 2008)

中国国防外事弁公室の銭利華主任(少将)は、英紙、*The Financial Times*との会見で、「中国が空母を建造することになっても、世界は驚いてはいけない。中国は、空母を沿岸防衛だけに使用することになる」と述べた。

銭利華主任は、中国が空母建造を決定したのかどうかについてはコメント避けたが、彼のコメントは、これまでで最も率直に中国が空母を建造する全ての権利があると述べたものである。銭利華主任は、「大国の海軍には、1隻以上の空母を保有したいという夢がある」と述べた上で、「問題は、空母を保有するかどうかではなく、空母で何をするかだ」と指摘した。そして、銭利華主任は米国を名指ししなかったが、「戦略的目的を持って空母戦闘群を10個以上も保有している国の海軍と、わずか1隻か2隻の空母しか持たない国とは、異なる。他国の海軍とは異なり、我々が空母を持てば、空母を世界的なプレゼンスに使用したり、あるいは世界的な戦力投入に使用したりすることはないであろう」と強調した。

しかしながら、中国海軍がブルーウォーターネイビーになることを懸念するアジアでは、こうした発言を保証付きのものとする人はいないだろう。中国海軍の空母が効果を発揮するようになれば、台湾の空海軍力に対抗すると共に、シーレーンを確保する中国の戦力を強化することになり、台湾との紛争では重要な意味を持つことになる。銭利華主任は、台湾の分離主義者は現在の中国が直面する「最大の脅威」である、と強調した。

11月24日「中国・韓国両国、軍事ホットライン開設」(AFP, November 24, 2008)

中国と韓国は24日、黄海における事故を阻止するために、両国の海軍と空軍司令部間に軍事ホットラインを開設した。

1.3 外交・国際関係

11月17日「バングラデシュ・ミャンマーの海洋境界交渉、進展せず」(AFP, November 17, 2008)

バングラデシュのチョードリー外相は17日、2日間にわたったミャンマーとの海洋境界を巡る交渉が失敗に終わったが、両国は引き続きこの問題について、話し合いを続ける、と語った。同外相は、「我々は、平和的手段でこの問題を解決できることに合意した」と強調した。

両国間には11月初め、韓国の石油会社が両国の海洋境界を巡る紛争海域で試掘を開始し、これにミャンマーが2隻の海軍戦闘艦を派遣してエスコートし、これに対してバングラデシュが4隻の海軍戦闘艦を派遣したことから、4日間にわたって緊張した局面が見られた。

結局、ミャンマーからベンガル湾での石油、天然ガス開発を認められた韓国の the Daewoo-Myanmar は8日、バングラデシュ領の St. Martin Island の南約50カイリの海域で行っていた試掘を中止した。(The Daily Star, November 12, 2008) しかし、ミャンマーは、陸上国境沿いに兵力を増強すると共に、シットウェに4隻の海軍戦闘艦を集結させている。(Mizzima News, November 7, 2008)

両国の紛争海域は、ナフ川 (the Naff River) 河口に位置する、St. Martin Island の南西60カイリの海域である。両国とも、当該海域は自国の領域に属する、と主張している。(Narinjara, November 5, 2008)

Source: World Atlas

1.4 海運・資源・環境・その他

11月6日「デンマークの海運会社、自社船舶を喜望峰周りに」(Lloyd's List, November 6, 2008)

デンマークの世界的な曳航・サルベージ会社、Svitzer は、ソマリア近海における海賊攻撃のリスクを避けるため、全ての自社船舶を常時、スエズ運河経由から喜望峰周りに変更したことを、大手海運会社としては初めて公式に認めた。この決定の背景には、2008年2月に同社のタグボート、*Svitzer Korsakov* が、サンクトペテルブルグからサハリンに向かう途中で、ソマリアの海賊にハイジャックされたことがある。同社は、該船と6人の乗組員を46日間にわたって拘束され、解放に当たって70万米ドルを支払った、と報じられた。同社は、安全上の配慮から詳細を公表しておらず、また喜望峰周りには3週間前後の日数がかかるが、追加経費についても言及を避けている。

11月10日「ノルウェーの海運会社、自社船舶を喜望峰周りに」(News 24, November 11, 2008)

ノルウェーの海運会社、Odfjell は10日、海賊事案が多発するアデン湾経由航路を使用せず、今後、より長く、また費用が嵩むが、より安全な喜望峰周りの航路を使用する、と発表した。同社によれば、自社の全ての船舶を喜望峰周りとする決定は、直ちに実施される。同社のCEOは、「我々のはもはや、自社の乗組員をアデン湾海域の海賊にハイジャックされ、身代金要求のために拘束される危険に晒すことはない。我々の顧客は、船舶と乗組員のみならず、積荷の安全を確保するこの決定を評価してくれると確信している。迂回ルートによって、余分に日数がかかり、積荷の配達も遅れる。また、経費も嵩むが、これらを補う顧客からの支援と貢献を期待している」と語った。同社によれば、どの程度の費用が嵩むかは予測が難しいが、航行日数は平均して6~12日間余分にかかるであろう。同社は、92隻の船舶を運用しており、主として化学製品や液体貨物を米国、欧州、アジア、中東及び南米間で輸送している。これまで、同社関係船舶は海賊被害には遭っていない。

11月12日「米最高裁、海軍にソナー使用を認める」(The Honolulu Advertiser, November 12, 2008)

米最高裁は12日、海軍にカリフォルニア沖での演習でソナーを使用することを認めた。環境団体は、鯨や他の海洋生物を保護するために、対潜訓練でのソナー使用に制約を課すことを求めていた。これに対して、ブッシュ政権は、カリフォルニア沖での40年以上に及ぶ訓練で、海洋生物の生命を危険に陥れたとする証拠はない、と主張していた。

11月19日「中国、2009年に前半にミャンマー経由のパイプライン建設開始へ」(Mizzima News, November 19, 2008)

中国は2009年前半に、ミャンマーのベンガル湾に面したシットウェと中国雲南省を結ぶ、長大なパイプライン建設を開始する。中国紙の報道によれば、中国石油天然気集団(CNPC)は、総額25億米ドルのこの計画に50.9%を出資し、残りはミャンマー国営ガス企業(MOGE)が負担する。この計画には、2本のパイプラインの建設が含まれる。1本は15億米ドルの石油パイプラインで、もう1本は14億米ドルの天然ガス・パイプラインである。この計画が完成すれば、西アジアとアフリカからの中国の石油輸入にとって新たなルートとなる。現在、中国の2億トンの年間原油輸入量の80%が、シットウェからさらに1,800キロ以上の東にあるマラッカ海峡を経由している。

11月20日「デンマーク海運大手、自社船舶の一部を喜望峰周りに」(MAERSK HP, Press Release, November 20, 2008)

デンマークの海運大手、A.P. Moller - Maersk は 20 日、当分の間、速度が遅く、乾舷の低い自社船舶を、マダガスカル東側と喜望峰経由とするが、これらの船舶をエスコートする態勢ができれば、エスコート船団に参加してアデン湾を航行することになる、と発表した。同社によれば、この方針は主にタンカーに適用され、コンテナ船は 3 隻が対象となる。同社は、迂回ルートによる影響を最小限に抑えたいとしている。同社は声明で、アデン湾の海賊問題は重要な国際貿易ルートの脅威になっており、海運業界だけで解決できる問題ではなく、関係機関と国際社会による対処が必要である、と強調している。

一方、ボルチック国際海運協議会 (BIMCO) は、全ての脆弱船 (タンカー) はマダガスカル東側から喜望峰周りの航路を取るよう要請している。中東からスエズ運河経由で北西ヨーロッパまでは約 6,150 カイリで、14 日間の日数を要すると見られるが、南アフリカ周りだと 1 万 950 カイリで、33 日間を要すると見られる。(Lloyd's List, November 24, 2008)

2. 情報分析

ソマリアの海賊 ～その実態～

1. 背景と海賊グループの実態

ソマリアでは、1991年に独裁者、Mohamed Siad Barre が倒されて以来、アフリカ最長の 3,000 キロに及ぶ海岸線と 700 万人を超える人口を持つ国が、全土を実効支配する中央政府を欠き、地方軍閥が割拠する状況が続いている。ソマリア暫定連邦政府 (the Somali Transitional Federal Government: TFG) は、首都、モガディシュを中心に中南部を支配している。このソマリアの内情が、沿岸域において海賊が跳梁跋扈する最大の要因といわれる。10月7日の国連安保理決議第 1838 が、海賊襲撃事案の根絶のためには、何よりもソマリア国内における平和と安定、国家機関の強化や法の支配の確立が必要であると強調している所以である。

ロンドンの国際海事局 (IMB) の年次報告書によれば、下表に示したように、2005 年は、以後、今日まで続く、ソマリア沖での海賊事案多発の始まりとなった年であった。2006 年のソマリア沖での発生件数は 10 件で、2005 年の 35 件からは大幅に減少している。2007 年 1 月に公表された報告書では、これは、この海域における多国籍海軍部隊の哨戒活動に加えて、同国の中央部と南部を実効支配したイスラム法廷連合による海賊対策の成果と見られる。しかしながら、2006 年 12 月にエチオピアの軍事的支援を受けたソマリア暫定連邦政府が法廷連合を駆逐したことから、旧民兵が収入源確保のために海賊行為に走る懸念がある、と報告書は指摘していた。このことは、全土を実効支配する政権の成立がソマリアの海賊対策にとって不可欠であることを示すと共に、その後の展開は、この報告書の予想通りとなっている。

最近 5 年間のアデン湾・紅海及びソマリア沖の海賊襲撃事案発生件数の推移 (未遂事案を含む)

海域	2004 年	2005 年	2006 年	2007 年	2008 年
アデン湾・紅海	8	10	10	13	51*
ソマリア	2	35	10	31	12
合計	10	45	20	44	63**

Source: "Piracy And Armed Robbery Against Ships: 1 January – 31 December 2007," ICC International Maritime Bureau, January 9, 2008, p.5, and "Piracy And Armed Robbery Against Ships: 1 January – 30 September 2008," ICC International Maritime Bureau, October 2008, pp.6-7.

注* : 紅海での襲撃は報告されていない。また、この海域での襲撃事案はソマリアの海賊によるものである。

注** : 2008 年の合計発生件数は通年合計ではなく、第 3 四半期 (1 月 1 日～9 月 30 日) までの発生件数である。2008 年のハイジャック事案の状況については、別添資料参照のこと。

ソマリアの海賊グループの実態について、デンマークの RiskIntelligence は、10 月 13 日付の、“Somalia Piracy Background Briefing” で、大きく 2 つのグループに分けられるとして、要旨以下のように述べている。1 つは南部のキスマヨ (Kismayo) を根拠地とするグループで、もう 1 つは中央部のホビョウーハラルデーレ (Hobyo-Harardhere) 地域を根拠地とするグループである。最初の

グループは、2006年に活動を止め、それ以来目立った活動をしていない。後者のグループは、Somali Marines の名で知られ、2007年1月から根拠地に復帰活動している。Somali Marines は特定の軍閥との結びつきはなく、多くの軍閥から要員を集めている。この資料によれば、2007年のハイジャック事案のほとんどがこのグループによるものと見られるが、同年後半からは、別のグループも現れるようになった。

この資料は、2007年以降、海賊が人質の解放にあつて要求する身代金の額が大幅に増大したことが、海賊をビジネスとして見る傾向を生み、海賊行為への志願者を増やしたとしている。各種の技能を持った4~5人のグループが海賊行為に関与することになった結果、ハイジャック事案が増え、身代金が高騰し（平均100万~200万米ドルといわれる）、益々多くのグループが関与するという、危険なスパイラルを生んでいる、と指摘している。

英国のChatham Houseのブリーフィングペーパー（Piracy in Somalia, Chatham House Briefing Paper, October 2008）は、ソマリア北東部のプントランド地区は同国の最貧地帯で、海賊ビジネスの実入りが大きな魅力となっていると指摘し、2008年の身代金は、1,800万~3,000万米ドル程度になる、と見積もっている。

更に、この資料によれば、この15年来、ソマリアの漁業産業が崩壊し、しかも欧州諸国やアジア、アフリカ諸国による乱獲（各種マグロの漁場）によって漁場が荒らされていることから、一部の海賊は、海賊行為がソマリアの海洋資源を護るためであり、身代金の支払いは正当な徴税である、と主張している。

下図に示すように、2008年の襲撃事案がソマリア沿岸よりもアデン湾海域に多く発生していることについて、前出のRiskIntelligenceの資料は、①2007年以降、ソマリア沿岸から200カイリ以上離れて航行することが国際海運業界に周知されたこと、②国連世界食糧計画（WFP）の支援船に対するエスコートが一部の船舶に対しても護衛効果を発揮していること、③海賊がアデン湾の方がソマリア沿岸沖より関心と呼び、また実入りも大きいことが分かってきた、といったことを挙げている。

一方、ハイジャックされた多くの船舶はインド洋に面したソマリア中部のエイル（Eyl）に、また一部はホビョウやハラルデーレの沖合に係留されている。東アフリカ船員支援計画のムワングラ・ケニア支部長は、「エイルでは、海賊は地元民から強力な支援を受けている。ここには、1973年に漁業基地が建設され、その後放置された。ここは孤立した場所で、海賊は、部外者などが入り込めない安全な土地と見ている」と語っている。（Reuters, September 2, 2008）

2. 襲撃方法と襲撃されやすい船舶

ソマリアの海賊によるハイジャック事案の推移は、別添資料に示したとおりであるが、襲撃される船舶はBulk Carrierが最も多い。ハイジャックされたBulk Carrierは、1~2万トン前後が平均的であった。しかし中には、9月21日にハイジャックされたギリシャの海運会社のパナマ籍船、MV *Capt Stephanos*（7万4,077DWT）や10月29日にハイジャックされた8万2,849DWTのマーシャル諸島籍船のばら積み船、MV *Yasa Neslihan* などのように、8万トン前後の大型のBulk Carrierもあった。

ソマリアの海賊がハイジャックした船舶は、比較的乾舷の低い、低速（15ノット以下）で、乗組員の少ない（平均20人前後）船舶が平均的である。デンマークのRiskIntelligenceによれば、海賊は通常、ハイジャックした船舶や特別仕立てたと見られる洋上の「母船」から、2~5隻の小型快速ボートで目標船を襲撃する。海賊は目標船に乗り込むために4~6メートルの縄ばしごを装備している。

また、海賊は重装備で、AK47 自動小銃や機関銃から RPG7 ロケット推進擲弾筒まで装備しており、目標船を停船させて乗り込み、乗組員を制圧するために、これらの武器を使用する。しかしながら、ソマリアの海賊は、身代金交渉では人質が最大の資産であることを心得ており、従って、乗組員を傷つけないで目標船をハイジャックするのが彼らの狙いである。

他方、4月21日にアデン湾で日本郵船の大型原油タンカー (VLCC)、「高山」(15万GT)が小型不審船1隻からの発砲により被弾する事案があった。「高山」のようなVLCCをハイジャックするのは困難と見られていたが、ソマリアの海賊は11月15日、Vela International用船 (Saudi Aramco 所有) のリベリア籍船大型原油タンカー (VLCC)、MT *Sirius Star* (31万8,000DWT) をケニアのモンバサ港の南東450カイリ余の公海でハイジャックした。該船は、ソマリアの海賊にハイジャックされた船舶では、これまでで最も大型であり、更に襲撃海域も沿岸から最も離れた海域であった (図参照)。マレン米統合参謀本部議長は11月17日の会見で、MT *Sirius Star* のハイジャック事案について、該船のトン数よりも、ハイジャックされた海域に驚かされたとして、これほど沿岸から離れた海域でのハイジャック事案はこれまで聞いたことがない、と語っている。(U.S. DoD, News Briefing, November 17, 2008)

該船は、ハイジャックされた時、200万バレルの原油を積載しており、原油積載時は下の写真に見るように喫水線が下がり、乾舷が低くなり、海賊にとって、乗り込みが不可能ではない状態にあったと見られる。11月16日に解放されたMT *Stolt Valor* の乗組員が述べているように、「海賊に乗り込まれたら、それまでである。(Once they are aboard, the game is over.)」(参考資料参照)

MT *Sirius Star* in Rotterdam on October 17, 2008

Source: Sky News, December 11, 2008

図 : MT *Sirius Star* 襲撃海域と 2008 年の海賊襲撃海域

Source: Spiegel Online, November 24, 2008

<http://www.spiegel.de/fotostrecke/fotostrecke-37406-15.html#backToArticle=592433>

こうした沿岸から遠く離れた海域での襲撃が可能なのは、この海域の海賊が目標船舶を襲撃するための小型快速ボートの発進、収納用に「母船」を使っているからである。IMBによれば、アデン湾沖で海賊が襲撃に発進する場合に、母船として使われていると見られる、2隻の疑惑のトロール船が存在する。ロシア製の船尾トロール船、*BURUM OCEAN*、及び *ARENA* 又は *ATHENA* の船名を持つ2隻のトロール船である。

BURUM OCEAN

ARENA (or *ATHENA*)

Source: IMB, August 21, 2008.

http://www.icc-ccs.org/main/piracy_al.php?newsid=20

Pirates on speedboat approach their mother ship in Eyl, Somalia

Source: Sky News, December 11, 2008

(参考資料)

「海賊に乗り込まれたら、それまで—拘束船員、解放後の会見」(The Hindustan Times, November 17, 2008)

11月16日に解放された MT Stolt Valor の乗組員は、インド紙、The Hindustan Times のインタビューで、ハイジャックされたときの状況などについて、次のように答えている。なお、同紙は、身代金の額について、最大 250 万米ドルとみている。

Q：海賊襲撃が多発する海域を航行中の船内はどのような状況か。

A：船の全ての出入り口は施錠され、全ての航行船舶と接近する小型ボートを見張るために、ブリッジの見張り要員を増員する。しかしながら、海賊に襲撃されても、我々には救難信号を発信することしかできない。海賊に乗り込まれたら、それまでである。(Once they are aboard, the game is over.)

Q：海賊は公海でどのようにして船舶をハイジャックするのか。

A：海賊は通常、1～2 隻の小型高速ボートで船尾から接近してくる。海賊はまた、見張り要員が行き違う船舶を見張るために右舷に立つことが多いため、左舷からも襲撃してくる。小型高速ボートは 20～25 ノットのスピードで、通常 13～14 ノットで航行する多くの商船よりも早い。

Q：商船は保安訓練をしているのか。

A：全ての商船は、緊急対処計画と保安システムを備えている。しかしながら、非武装の乗組員が海賊に対して何ができるのか。一部のイスラエル船は砲を備えているが、商船は通常、如何なる武器を備えていない。

Q：商船が準拠する標準的な運用手順があるか。

A：商船は通常、接近する小型高速ボートの操縦を困難にさせるために大波を起こすような回避行動をとる。高水圧の放水も海賊の接近を阻止するために使用される。しかし、これらも実際的ではなく、一旦海賊に乗り込まれたら、降伏する以外に選択肢はない。

Q：インド海軍など、海軍の戦闘艦の存在に安心感を得られるか。

A：ノー。十分ではない。11月10日にハイジャックされたケミカル・タンカー、MT Stolt Strength は、インド海軍戦闘艦の 24 カイリ後方の海域にいた。救難信号を発信したが、どの国の戦闘艦からも反応がなかった。

別紙：海洋政策研究財団作成資料

2008年におけるアデン湾・ソマリア沖のハイジャック事案の状況

12月15日現在

船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船舶のタイプ	旗国
<i>Svitzer Korsakov</i>	2.1	3.18 (46)	6	Tug	St.Vincent & Grenadines
<i>Brum Ocean</i>	4.1	4.1 (1)	34	Fishing vessel	Yemen
<i>Playa De Bakio</i>	4.2	4.25 (23)	26	Fishing vessel	Canary Islands
<i>Le Ponant</i>	4.4	4.11 (7)	30	Passenger Vessel	France
<i>Al-Khaleej</i>	4.21	4.21 (1)	16		UAE
<i>Victoria</i>	5.17	5.23 (6)	21	General Cargo	Jordan
<i>Amiya Scan</i>	5.25	6.24 (30)	9	General Cargo	Antigua & Barbuda
<i>Lehmann Timber</i>	5.28	7.7 (40)	15	General Cargo	Gibraltar
<i>Rockall</i>	6.23		3		
<i>Stella Maris *</i>	7.20	10.9 (81)	20	Bulk Carrier	Panama
<i>Yenagoa Ocean</i>	8.5		8	Tug/Supply Vessel	Panama
<i>Thor Star</i>	8.12	10.16 (64)	28	Bulk Carrier	Thailand
<i>Bunga Melati Dua</i>	8.19	9.29 (40)	39 (1)	Chemical Tanker	Malaysia
<i>Iran Deyanat</i>	8.21	10.10 (49)	29	Bulk Carrier	Iran
<i>BBC Trinidad</i>	8.21	9.11 (20)	13	Bulk Carrier	Antigua & Barbuda
<i>Irene *</i>	8.21	10.8 (47)	19	Tanker	Panama
<i>Bunga Melati Lima</i>	8.29	9.27 (28)	41	Chemical Tanker	Malaysia
<i>Carre D'as IV</i>	9.2	9.15 (13)	3	Yacht	Venezuela
<i>Al Mansourah</i>	9.3	9.27 (24)	25	Bulk Carrier	Egypt
<i>Bright Ruby</i>	9.10	10.16 (36)	21	Bulk Carrier	South Korea
<i>Stolt Valor *</i>	9.15	11.16 (62)	22	Chemical Tanker	Hong Kong
<i>Great Creation</i>	9.17	11.19 (63)	25	Bulk Carrier	Hong Kong
<i>Centauri</i>	9.18	11.27 (70)	25	Bulk Carrier	Marta
<i>Capt Stefanos</i>	9.21	12.9 (79)	19	Bulk Carrier	Bahamas
<i>Faina</i>	9.25		21(1)	Ro-Ro vessel	Belize
<i>Genoius</i>	9.26	11.20 (54)	19	Chemical Tanker	Liberia
<i>Wail</i>	10.9	10.14 (5)	11	General Cargo	Panama
<i>Action</i>	10.10	12.13 (64)	20 (3)	Chemical Tanker	Panama
<i>African Sanderling *</i>	10.15		21	Bulk Carrier	Panama
<i>Yasa Neslihan</i>	10.29		20	Bulk Carrier	Marshall Island
<i>CEC Future</i>	11.7		13	General Cargo	Bahamas
<i>Stolt Strength</i>	11.10		23	Chemical Tanker	Philippines
<i>Stolt Venture</i>	11.11		21	Chemical Tanker	Philippines

船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船舶のタイプ	旗国
<i>Karagol</i>	11.12		14	Chemical Tanker	Turkey
<i>Tian Yu.8*</i>	11.13		24	Fishing Boat	China
<i>Sirius Star**</i>	11.15		25	Crude Oil Tanker	Liberia
<i>Chemstar Venus*</i>	11.15		23	Chemical Tanker	Panama
<i>Delight</i>	11.18		25	Bulk Carrier	Hong Kong
<i>Ekawat Nava 5***</i>	11.18		16 (2)	Fishing Boat	Kiribati
<i>Amani</i>	11.25	11.30 (5)	7	General Cargo	Yemen
<i>Biscaglia</i>	11.28		31	Chemical Tanker	Liberia

出典：” Piracy And Armed Robbery Against Ships: 1 January – 30 September 2008,” ICC International Maritime Bureau, October 2008, pp.51-65., and Hans Tino Hansen, “Somalia Piracy Background Briefing,” Version 1.3, RiskIntelligence, October 13, pp.4-5. <http://www.riskintelligence.eu/gfx/somalia%20briefing%20%20october%202008%20version%201.3.pdf> 及びその他の報道資料のデータを加えて作成。

注1：船舶のタイプと旗国の空欄箇所は不明。

備考*：日本関係船を示す。*Stella Maris* と *Irene* は興洋海運、*African Sanderling* は長鋪汽船の関係船。*Stolt Valor* も日本の海運会社関係船。*Chemstar Venus* はイイノマリンサービスの関係船。*Tian Yu.8* (マグロ漁船) は中国の天津遠洋漁業公司所属で、船長は日本人。

備考**：該船は、ソマリアの海賊にハイジャックされた船舶では、これまでで最も大型であり、更に襲撃海域も沿岸から最も離れた海域であった。

備考***：該船はその後、インド海軍フリゲート、INS *Tabar* が 11 月 18 日に撃沈した海賊の「母船」と見られる船であったことが判明した。乗組員 16 人の内、14 人が行方不明で、1 人は 6 日後にアデン湾を漂流中に発見、救助され、もう 1 人は死亡が確認された。INS *Tabar* に遭遇した時、該船は海賊の制圧下にあった。

リンク先

AFP	http://www.afp.com/home/
Al Jazeera	http://english.aljazeera.net/
AP	http://www.ap.org/
BBC News	http://www.news.bbc.co.uk/
Bloomberg	http://www.bloomberg.com/
CNN	http://www.cnn.com/
Daily Mail Online	http://www.dailymail.co.uk/home/index.html
Ecoterra International	http://www.businesspatrol.com/country-links/ecoterra-international,9870.html
Fairplay Daily News	http://www.brfairplay.com/
gulfnews	http://www.gulfnews.com/home/
International Herald Tribune	http://www.ihf.com/
Lloyd's List	http://www.lloydslist.com/ll/home/index.htm
MAERSK HP	http://www.maersk.com/en/Pages/Welcome.aspx
Maritime Global Net	http://www.mgn.com/
Mizzima News	http://www.mizzima.com
Narinjara	http://www.narinjara.com/
Nasdaq	http://www.nasdaq.com/
NATO Allied Maritime Component Command Naples	http://www.afsouth.nato.int/organization/CC_MAR_Naples/index.htm
News 24	http://www.news24.com/
Reuters	http://www.reuters.com/
RIA Novosti	http://en.rian.ru/
Risk Intelligence	http://www.riskintelligence.eu/default.asp?lang=en
Shiptalk	http://www.shiptalk.com/
Sky News	http://www.skynews.com.au/
Spiegel Online	http://www.spiegel.de/international/
The Daily Star	http://www.thedailystar.net/
The Financial Times	http://www.ft.com/home/asia
The Guardian	http://www.guardian.co.uk/
The Hindustan Times	http://www.hindustantimes.com/Homepage/Homepage.aspx
The Honolulu Advertiser	http://www.honoluluadvertiser.com/
The New York Times	http://www.nytimes.com/
The Standard	http://www.eastandard.net/
The Straits Times	http://www.straitstimes.com/Home.html
The Times Online	http://www.timesonline.co.uk/tol/news/
Trade Winds	http://www.tradewinds.no/
U.S. Department of Defense	http://www.defenselink.mil/
Vela International HP	http://www.vela.ae/
VOA News	http://www.voanews.com/english/portal.cfm
Xinhua (新華社)	http://www.xinhuanet.com/english/
Yonhap News	http://english.yonhapnews.co.kr/

海洋政策研究財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目15番16号 海洋船舶ビル3F
TEL.03-3502-1828 FAX.03-3502-2033

((財)シップ・アンド・オーシャン財団は、標記名称にて活動しています)